

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] Word実習	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 医療総合科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 25回 50時間
[担当教員および実務経験] 山田 珠里		
[授業の目的] Microsoft Wordの操作に慣れ、入力速度を向上させるとともに、ビジネス文書の様式を理解し日本情報処理検定協会の日本語ワープロ検定を取得する。 また「文字」だけではないWordの機能を使いこなし、オリジナルの文書を作成することができる。		
[授業の方法および概要] テキストや問題集を用いて、到達目標に沿った内容を、PCを操作しながら習得する。その上で確認テストを行い、到達目標の習得度を測定する。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・正しいタイピング方法を身に付け、正確に入力することができる。 ・タッチタイピングで入力速度を向上させる。 ・ビジネス文書の様式を理解し、作成することができる。 ・日本語ワープロ検定に合格することができる。 ・ワードアートや図形描画を用いて、オリジナルの文書を作成することができる。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考查を実施する。 ・ 期末考查は日本情報処理検定協会のワープロ検定に合格するために、検定と同様の採点基準を採り考查とする。 ・ 平常点(25%) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容ごとに実施される小テストで目標値に達している。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 30時間でマスター Word2016 実教出版株式会社 2016年 		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1	Wordのできること
2～4	Wordの基礎・入力練習（タッチタイピング）
5.6	Wordの基礎・入力練習（速度練習）（表の作成、書式設定）
7～11	Wordの活用（ワープロ検定3級文書作成練習）
12～15	Wordの活用（ワープロ検定準2級文書作成練習）
16.17	Wordの基礎（段組み・ドロップキャップ・ページ罫線）
18～20	ワープロ検定2級文書作成練習・速度練習
21～24	級別文書作成練習
25	確認テスト

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] E x c e l 実習	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 医療秘書科 2年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 30回 60時間
[担当教員および実務経験] 山田 珠里		
[授業の目的] 基本的な表計算の知識を身に着け、適切で分かりやすい資料を作成することができる。各自のレベルに合わせて情報処理技能検定（表計算）の準2級、2級、準1級の合格を目指す。		
[授業の方法および概要] <ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft Excelの有効な利用を通じて、情報処理能力を身につける。 ・ 分かりやすい資料を作成することが表計算の目的であることを意識させて練習させる。 ・ 特に関数に関しては、その関数の意味や制御の方法を考えながら思考できる学習に配慮する。 		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単なExcelの使い方を知る。 ・ ワークシートを活用し、表計算で出来る作業を理解できる。 ・ データを加工し、目的に沿った見やすいグラフを作成できる。 ・ いろいろな関数を駆使し、より便利な資料作成が出来る。 ・ 情報処理技能検定（表計算）の準2級、2級、準1級いずれかの合格を目指す。 		
[成績評価の方法と基準] <p>教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] <ul style="list-style-type: none"> ・ 実教出版 30時間でマスター EXCEL 2016 		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1	第1章Excelの基礎知識、第2章Excel入門
	第3章ワークシートの活用 (1)
2～4	第4章ワークシートの活用 (2)
5～8	3級過去問題
9	第5章グラフ (1)
10	第8章Excelの応用
11	準2級過去問題
12～15	2級過去問題
16～20	受験級に応じて過去問題答練
21～25	準1級データベース関数
26～30	準1級過去問題

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] トリミング実習	[授業形態] 演習	必修 選択
[対象学科・学年・時期] ペットトリマー科 1年 前期 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年		[授業回数・時間数] 350回 700時間
[担当教員および実務経験] 今飯田 美智子 (トリミングサロン勤務経験あり)		
[授業の目的] 基本のトリミング技術を習得し、目標時間内に仕上げる 犬種ごとに適したトリミングができるようにする SAE公認トリマー初級の合格を目指す		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、具体例を示しながら実習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] ・ シャンプーセット (ブラッシング～耳掃除) を制限時間内に仕上げるができる ・ ペットクリップを制限時間内に仕上げるができる		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、実技試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献]		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	授業の概要、実習室の使い方、 ケージ、使用道具、教室までにおける基本的な清掃方法
2	ケージから犬を安全に出す方法 様々なサイズ・タイプの犬の抱き方、渡し方
3	先生のデモンストレーション（一連の流れを実践）
4～28	●シャンプーセット① ・ブラッシング・コーミング 確認テスト：シャンプーセット①
29. 30	●シャンプーセット②
31～66	・シャンプー・リンスの種類と知識 ・シャンプー・タウエリング・ブロー
67. 68	確認テスト：シャンプーセット②
69～100	●シャンプーセット③ ・足裏カット・爪切り、爪やすり・耳掃除・足周りのカット 確認テスト：シャンプーセット③
101～105	●カット ・体バリカン・手足ハサミカット・顔カット・耳カット・尻尾カット
105～130	期末考査にむけて練習 前期期末考査
131～193	部分カット（ダックス、チワワ、パピオン等）
194～238	全身カット（シーズー、マル、ヨーキー等）
239～283	短毛種、中短毛種、長毛種のトリミング
284～350	公認トリマー初級 試験対策 後期期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] グルーミング学	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] ペットトリマー科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 30回 60時間
[担当教員および実務経験] 今飯田 美智子 (トリミングサロン勤務経験あり)		
[授業の目的] ・犬の扱い方を理解し、各道具の使用法・注意点を把握することで、グルーミング実習時に安全でスムーズな作業が出来るようになる ・グルーミングの目的・各作業の目的を学び、その必要性を理解する		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] ・グルーミング、トリミングとは何かを理解する ・グルーミング、トリミング時に使用する道具の種類、使用方法、注意点、犬の扱い方を理解する ・各犬種のスタンダードを理解した上で、トリミング技法、カット手順を習得する		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考査点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献]		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1	グルーミングの役割、トリマーとしての心構え
2	作業前に行う犬の状態確認、グルーミングの流れ
3	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーミングに必要な道具の知識や使い方
4~7	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーミング用語
4~7	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーミング用語
	<ul style="list-style-type: none"> ・被毛の種類
	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーミング犬種
8.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラッシング、コーミングの正しい道具の使い方、作業方法、保定法
	<ul style="list-style-type: none"> ・シザーの持ち方
10	<ul style="list-style-type: none"> ・爪の構造、耳の構造
	<ul style="list-style-type: none"> ・爪切り、爪やすり、鉗子の扱い方
	<ul style="list-style-type: none"> ・爪切り、爪やすり、耳掃除の正しい道具の使い方、作業方法、保定法
	<ul style="list-style-type: none"> ・シザーの持ち方、手の動き
11.12	<ul style="list-style-type: none"> ・スリッカー、ピンブラシ、コーム、の扱い方
	<ul style="list-style-type: none"> ・爪切り、鉗子、シザーの持ち方、手の動き
13~16	<ul style="list-style-type: none"> ・基本部位のクリッピング（足裏、腹部、肛門周り）正しい道具の使い方、作業方法、保定法
	<ul style="list-style-type: none"> ・スリッカー、ピンブラシ、コーム、爪切り、鉗子、シザー開閉
17~20	<ul style="list-style-type: none"> ・ハサミの扱い方の習得
	<ul style="list-style-type: none"> ・スリッカー、コーム、シザー開閉
21~30	全身ウィッグを使用したブラッシング、コーミング、カット

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] コミュニケーションスキル	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] 医療総合科・ペットトリマー科 合同 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間
[担当教員および実務経験] 堀川 智美		
[授業の目的] 職場ではミスやヒヤリハットを起こさないためにスタッフ同士のコミュニケーションが重要となる。職場に必要とされる「相手の話をよく聞く能力」「スタッフ同士の適切な意思疎通能力」を身に付けることを目的とする。		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、グループ間でコミュニケーションスキルを向上させる。また、コミュニケーションスキルの理論を講義で学び、アクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰とでも話すことができるようになる。 ・ 適切なタイミングで連絡・報告・相談ができるようになる。 ・ 目上の人、目下の人など立場に合わせた心配りができるようになる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献]		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ 数	授業の内容
1	〈実践〉授業の概要、コミュニケーション調査、自己開示のコミュニケーション
2	〈実践〉自己開示のコミュニケーション
3	〈実践〉グループワーク①（言語化トレーニング1）
4	〈実践〉グループワーク②（言語化トレーニング2）
5	〈実践〉グループワーク③（傾聴力、表現力、語彙力）
6	〈実践〉グループワーク④（企画運営）
7	〈実践〉グループワーク⑤（企画運営）
8	〈実践〉グループワーク⑥（企画運営）
9	〈実践〉グループワーク⑦（企画運営）
10	〈理論・実践〉コミュニケーションとは、コミュニケーション手段について
11	〈理論・実践〉ハウレンソウが必要な理由
12	〈理論・実践〉傾聴力を身に付ける
13	〈理論・実践〉コミュニケーションエラー
14	〈理論・実践〉伝える力を養う
15	〈復習〉授業の振り返り、コミュニケーション能力検証、復習

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 犬猫種学	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] ペットリマー科 1年 前期 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年		[授業回数・時間数] 30回 60時間
[担当教員および実務経験] 今飯田美智子 (トリミングサロン勤務経験あり) 堀川智美		
[授業の目的] 犬の歴史や各犬種のスタンダード (犬種標準) を学ぶ。犬についての全般的な知識を幅広く学び、実習授業に活かす事を目的とする。		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・各犬猫種の沿革・特徴・性格・被毛・毛色・体部特徴・サイズ等の説明ができる。 ・各犬猫種の基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。 ・犬猫種の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。 ・スタンダードを理解しながら、実習へ繋げることができる。 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] 最新犬種図鑑 写真で見る犬種とスタンダード EDUWARD Press		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方、犬の歴史
2	・ J K C 第 1 ～ 第 1 0 グループについて、犬種標準、血統書について
	・ 犬の体に関する基礎知識（部位、骨格、臓器、歯、）
3	確認テスト：犬の体に関する基礎知識
4	第1グループ 犬種、原産地、特徴・性格
5	第1グループ 犬種、原産地、特徴・性格
6	第2グループ 犬種、原産地、特徴・性格
7	第2グループ 犬種、原産地、特徴・性格
8	確認テスト：第1.2グループ
9	第3グループ、第4グループ 犬種、原産地、特徴・性格
10	第3グループ、第4グループ 犬種、原産地、特徴・性格
11	確認テスト：第3.4グループ
12	第5グループ、第6グループ 犬種、原産地、特徴・性格
13	第5グループ、第6グループ 犬種、原産地、特徴・性格
14	確認テスト：第5.6グループ
15	期末考査前 復習
	前期期末考査
16	第7グループ、第8グループ 犬種、原産地、特徴・性格
17	第7グループ、第8グループ 犬種、原産地、特徴・性格
18	確認テスト：第7.8グループ
19	第9グループ、第10グループ 犬種、原産地、特徴・性格
20	第9グループ、第10グループ 犬種、原産地、特徴・性格
21	確認テスト：第9.10グループ
22	用語解説、カラー事典
23	用語解説、カラー事典
24	確認テスト：用語解説、カラー事典
25	猫種① 猫の歴史、タイプ別猫の種類と特徴
26	猫種② タイプ別猫の種類と特徴
27	猫グルーミングの注意点
28	猫グルーミングの注意点
29	期末考査前の復習
30	期末考査前の復習
	後期期末考査

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] 犬学	[授業形態] 講義	必修 選択
[対象学科・学年・時期] ペットリマー科 1年 前期 後期 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間
[担当教員および実務経験] 今飯田 美智子 (トリミングサロンにて勤務経験あり)		
[授業の目的] 動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、演習問題を行い、到達目標の修得度を測定する		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の構造について理解する ・血液について理解する ・心臓の構造や性質について理解する ・免疫機構の分類を理解する ・脳や神経系の構造と機能を理解する 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。 		
[使用テキスト・参考文献] 愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 動物形態機能学 動物繁殖学 EDUWARD Press		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ 数	授業の内容
1	授業の概要、第1章 生命のすがた
2	第1章 生命のすがた
3	第1章 生命のすがた
4	第1章 生命のすがた、演習問題
5	第2章 血液と造血器
6	第2章 血液と造血器、演習問題
7	第3章 血液循環とその調節
8	第3章 血液循環とその調節
9	第3章 血液循環とその調節、演習問題
10	第4章 生体の防御機構
11	第4章 生体の防御機構、演習問題
12	第5章 脳と神経
13	第5章 脳と神経
14	第5章 脳と神経
15	第5章 脳と神経、演習問題

授 業 計 画 (シラバス)

[科目名] サービス接遇	[授業形態] 講義	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
[対象学科・学年・時期] ペットトリマー科 1年 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 通年		[授業回数・時間数] 15回 30時間
[担当教員および実務経験] 堀川 智美		
[授業の目的] 他者と良好な人間関係を築くために必要な「対人関係能力」を身に付ける 基本的なサービスを行うのに必要な知識、技能を身に付ける サービス接遇検定3級の合格を目指す		
[授業の方法および概要] 授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。		
[授業の到達目標] <ul style="list-style-type: none"> ・ 生き生きとした明るい調子の話し方で対応できる ・ 明るく、親しみやすい笑顔で対応できる ・ 腰が低く、丁寧な所作で対応できる ・ お客様が喜ぶようなことを言える 		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点(75%) 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点(25%) 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献]		
[備考]		

[授業計画(内容)]

コマ数	授業の内容
1	授業の概要、目的、サービススタッフの資質
2	サービススタッフの資質
3	サービススタッフの資質
4	確認テスト：サービススタッフの資質
5	専門知識 サービス知識
6	専門知識 サービス知識
7	専門知識 従業知識
8	専門知識 従業知識
9	確認テスト：専門知識
10	一般知識 社会常識
11	一般知識 社会常識
12	一般知識 社会常識
13	確認テスト：一般知識
14	理論分野（サービススタッフの資質、専門知識、一般知識）の復習
15	理論分野（サービススタッフの資質、専門知識、一般知識）の復習